

スーパーシティとは？

- ◆ **スーパーシティとは**、令和2年9月に施行された改正国家戦略特別区域法により創設された、**新たな国家戦略特区制度**の一つ。
- ◆ **大胆な規制緩和**と生活全般にまたがる**先端的サービスの社会実装**により、住民が抱える社会的課題を解決し、2030年頃に実現される**未来社会の先行実現**をめざすもの、とされている。
- ◆ 現在、**内閣府において**、特区として指定すべき区域・実施する先端的サービス・規制改革などに関し、地方公共団体からの幅広い提案を受け付ける、**スーパーシティ区域の指定に関する公募**が行われている。（4月16日〆切）

大阪府・市の取り組み

- ◆ 大阪府・大阪市では、**2024年に先行まちびらきを予定している「うめきた2期」と、2025年大阪・関西万博の会場となる「夢洲」**をセットでスーパーシティの指定を受けたいと考えている。
- ◆ 特に、夢洲で開催される2025年大阪・関西万博のコンセプトは「**未来社会の実験場**」であり、また、万博パビリオンエリアを中心とした「**夢洲2期**」区域では、**万博のレガシーを活かしたまちづくりを行うこと**としており、夢洲は「**まるごと未来都市**」をめざす**スーパーシティの実現にふさわしいエリア**と考えている。
- ◆ 夢洲では、**万博開催より前の段階から**、スーパーシティの枠組みのもと、会場整備やインフラ工事など、**ICTを活用したスマートな工事の実現**に向け、**官民連携**して取り組み、世界から脚光を浴びる**万博に先駆けて発信**していきたい。

- ◆ 夢洲では2025年大阪・関西万博の開催に向け、会場整備やインフラ整備等の建設工事を円滑に行うため、工事車両の渋滞対策や作業員の円滑な移動などに取り組む必要がある
- ◆ グリーンフィールドである夢洲を実証の場に、最先端技術の活用による、**建設工事の安全かつ円滑な実施**を通して、QoLを高める技術の創出を推進し、万博及び将来の夢洲のまちづくりに活かしていく

“夢洲建設プラットフォーム”の構築

工事現場内外の移動の円滑化

- ・ ICT技術による一元的な工事車両の運用管理
- ・ ICT技術による島外からの作業員用シャトルバス運行管理
- ・ AIを活用した現場内外の移動用ワンデマンドバス運行管理

工事現場への入退場等の円滑化

- ・ 顔認証システムの導入による作業員の入退場管理
- ・ 作業現場のキャッシュレス化

資材運搬・工事の円滑化

- ・ ドローンによる資材運搬（夜間自動運転）
- ・ 人とモノの同時搬送（貨客混載）
- ・ ドローンの遠隔操作による現場管理

作業員の健康管理の円滑化

- ・ バイタルデータ計測による健康一元管理（熱中症予防等）
- ・ 専属産業医の遠隔化、薬局外からの服薬指導

※各項目の取り組み内容は例示



建設工事で実現した技術やサービスを万博や夢洲まちづくりでも発展的に活用